ら毎日のように顔を出すおばあちゃんもいるんですよ」と野村院長は苦笑する。

一流の技術と設備を持った専門性、徹底した患者サービス、気軽に受診できる親しみやすさ――患者が望むかかりつけ医としての条件を同クリニックはすべて兼ね備えているといえる。それに医療機関が少ないという環境条件も重なって、1日平均患者数100人という数字に結びついているのだろう。

## 「楽しく仕事を」それが患者への接遇に反映

内視鏡検査をするにはそれ専用の部屋が必要だ。従って、ある程度の広さがクリニックに求められる。

「総合メディカルからこの物件を紹介されたとき、広い点も気に入りました。東京23区内で建物面積が130m²の広さを持つ物件はそうありませんから」

実はこの建物、以前は整形外科の診療所だった。いわゆる居ぬき物件で、それほど手を加えなくてすむことも、ここを選ぶ理由の一つになったという。

診療室内を案内していただいた。大きな透明ガラスの玄関を入ると、正面に受付のカウンターがある。待合室はゆったりとして、出窓にはかわいいぬいぐるみなどが置かれている。ソファや壁などインテリアの基調色は淡いイエローで統一。これは、野村院長自らが明るく、患者の心が安らぐ色にしたいと選んだ。

受付の奥が診察室。廊下を挟んで反対側に検査室がある。検査室は思いのほか広く、身長計や体重計、血圧計などの機器が置かれている。内視鏡検査室はこの検査室の奥に独立して設けられていて、最新式の装置が配置されている。この部屋こそが、"一流の技術""一流の設備"という野村院長のこだわりのスペースだ。

医師になったときから開業したいという希望を持っていたという野村院長。「その夢がかなった今のお気持ちは？」と尋ねると、「毎日、いろんな患者さんと会えて楽しくて仕方がないんです」とすぐに返事が返ってきた。

野村院長がスタッフたちに常々言っている言葉がある。「楽しく仕事をするように」――自分が楽しく仕事をしていなくて、どうして患者や他の人に笑顔でやさしく接することができるだろうかというのが野村院長の考えだ。

「この1年間、自分でもびっくりするくらい順調に進んできました。しかし、現状に甘んじることなく、設備の更新などもその都度行っていくつもりです。そして、あそこに行けばなんとかしてくれると思ってくださる人たちをもっと増やして、地域住民の健康のサポートをしていきたいですね」

開業以来、毎日忙しく、趣味のスキューバダイビングやドライブとは疎遠になり、もっぱら子どもと遊ぶことがストレス解消という野村院長。これからも当分、趣味を楽しめる時間は持てそうもない。

### *Profile* ● 野村哲也院長

1968年生まれ。東京都出身。1994年、筑波大学医学専門学群卒業。同年、東京医科歯科大学第一内科入局。国立がんセンター東病院内視鏡部、都立墨東病院内科、順天堂大学消化器内科などを経て、2004年2月、かつしか野村クリニック開業。

かつしか野村クリニック
診療科目：内科、消化器科
所在地：東京都葛飾区水元2-13-6
TEL：03-3826-5723／FAX：03-3826-5726
URL：http://www.nomura-clinic.jp